

- ①基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせる学習の強化
- ②根拠を明らかにして自分の考えを説明する能力を身につけた生徒の育成

学力向上推進員 齋藤 雅人
委員
校長: 上山 恭史 教頭: 久保善信 教務主任: 第二学年主任: 小中一貫教育
コーディネーター: 大岩秀樹 人権教育主事: 第一学年主任: 齋藤雅人
道徳教育推進教師: 葛木大子 第三学年主任: 仁木賢治

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ○国語科の「書くこと」「読むこと」、数学科の「数と式」「資料の活用」の領域で成果がみられる。 ○授業ではある程度の理解を示し、課題解決することもできる。	基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。	定期テストの、基礎的・基本的な問題の正答率を75%以上にする。	④テスト1週間前から、各教科のポイントをもとめたプリントを学習させ、放課後確認テストを行う。	①定期的に小テストを行った。 ②学習が遅れがちな生徒を中心に支援した。再テストができていないときもあった。 ③少量で回数多くする教科もあれば、ある程度まとめて宿題を出す教科もあった。 ④学習プリントを朝渡し、終学活で確認テストをした。バスの時間もありがたかった。 ⑤概ね毎週1回行ったが、準備不足でできなかった時もあった。	ほとんどの生徒が、基礎的・基本的な問題の正答率が75%を上回っていた。教員側の取組が十分でない時は生徒の理解も低く、75%を下回ることもあった。
課題 ○家庭での主体的な学習習慣が身につけていない生徒が多く、基礎学力がなかなか定着しない。	具体的方策(教員の取組) ①読み書きのドリルや小テスト等で、繰り返し学習する。 ②TTや再テストで、学習が遅れがちな生徒の支援を行う。 ③各教科で計画的に宿題を出す。 ④テスト勉強時間を設け、勉強の仕方を指導する。 ⑤天声人語の視写を行う。	取組指標 ①②各教科で計画的に行う。 ③5教科で毎授業10分程度の宿題を出す。 ④テスト1週間前から放課後20分間行う。 ⑤毎週1回行う。		評価 B 次年度における改善事項 ②小テストで合格点に満たない生徒への再テストを徹底する。 ③単元の終わりなど、教科の特性に合わせて定期的に宿題を出す。 ④プリントの内容を厳選したり、確認テスト後に短時間でどこがどう間違っていたのかを確認できるような工夫をする。 ⑤前もって視写のプリントを作成し、ストックしておくようにする。	

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ○授業中は進んで発表し、課題に意欲的に取り組む。 ○生徒数が少なく、生活の中で一人一人が活躍する場面が多い。	自分の考えを、根拠や理由を明らかにしながら説明したり、書いたりして伝えることができる。	「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができた」と答える生徒の割合を80%以上にする。	①内容によっては、思考ツールを利用してまとめる機会を設ける。 ③帰りの学活の1分間スピーチのテーマを決めてスピーチさせる機会を増やす。	①授業の中で自分の考えを書いたり発表したりする機会を設けた。また、国語では細かな構成を書かせるように指導した。 ②テーマを指定して日記を書く機会を増やした。 ③日直による1分間スピーチを毎日行った。	国語の授業ではワークシートで文章を構成させることで、大切なキーワードや接続語を使い適切な文章が書けるようになりつつある。日記や1分間スピーチでは、自分の考えを表現できるようになってきたが、十分な構成ができていないため、内容に深まりがない。
課題 ○自分の体験や感想・意見を話したり、書いたりして伝えることに苦手意識をもっており、特に「書くこと」に関する力が弱い。	具体的方策(教員の取組) ①道徳・特活・総合を含む学習活動の中で、自分の考えを筋道を立てて文章に書く・表現する機会を意図的に設ける。 ②新聞の記事の感想やテーマ日記を書く機会をつくる。 ③帰りの学活で1分間スピーチの実施。	取組指標 ①自分の考えを筋道だてて表現する機会を1週間に1回以上行う。 ②毎週1回行う。 ③毎日行う。		評価 B 次年度における改善事項 ②③1分間スピーチや日記の内容を深めるための指導が必要である。1分間スピーチでは思考ツールを活用したワークシートを作成しスピーチの準備をさせる。日記では書きっぱなしにするのではなく、自分で一度読み返すように指導していく。	

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ○読書の時間は集中し、休み時間も読書する生徒が多い。 ○生活や授業の規律がほぼ守られており、授業では意欲的に取り組む。	将来の夢や目標をもち、主体的に家庭学習や課題に取り組むことができる。	「将来の夢や目標をもっている」「主体的に家庭学習に取り組むことができた」と答える生徒の割合を60%以上にする。	④自主勉強ノートの校長によるチェックを継続しながら、家庭学習の充実させるために、1時間分の自主勉強を提出するように変更する。	①授業の最初と最後に目標や振り返りを行ったが、できない時もあった。 ②年度初めに家庭学習の手引きを作成し、全校集会で各教科担当から説明をした。 ③目標達成シートで学期毎に目標と自己評価をさせ、教員がアドバイスを書き込んだ。 ④週初めに校長によるチェックを実施した。 ⑤国語では、本の紹介や読書体験から様々な生き方や自己の見つけ方があることを示した。ふるさと学習で、将来の木頭や自分について考えるような機会をとった。	学年が上がるにつれて、将来の夢や目標が明確になってきている。3年生では全ての生徒が将来の夢をもって卒業することとなった。家庭学習への取組については、まだ十分でない。
課題 ○自ら課題を見つけ、主体的に学習に取り組む態度が身につけていない。 ○新聞やニュースを見ることが少ない。 ○将来の夢や目標をもっている生徒が少ない。	具体的方策(教員の取組) ①授業の最初に目標の確認、最後に振り返りを行う。 ②家庭学習の手引きを配布し、勉強の仕方を教える。 ③学習・部活・生活について、目標と自己評価をさせるとともに、教員がアドバイスを書き込む。 ④担任による自主勉強ノートの指導だけでなく、校長によるチェックを行う。 ⑤キャリア教育を充実し、将来の夢や目標をもてるような授業を行う。	取組指標 ①目標確認・振り返りを毎時間行う。 ②年度初めに全校集会で行う。 ③学期始めと終わりに行う。 ④週1回行う。 ⑤1か月に1回は将来の夢や目標を考えさせるような授業を行う。		評価 B 次年度における改善事項 ①教師からの振り返りで終わるのではなく、生徒自身も自己評価をするような工夫をする。 ②家庭学習を充実させるために、各教科でどのように自主学習をすればいいのを中心に説明する。 ③目標を立てているが、内容を忘れて生活している生徒もいる。常時、目標に向かって自分の行動を振り返らせるような取組や目標を簡単に確認できるように改善していきたい。 ④継続する。 ⑤総合的な学習の時間を中心にし、キャリア教育を計画的に行う。	

平成29年度 学力向上ロードマップ

